

JASIS 2025 見聞録

(Japan Analytical & Scientific Instruments Show)

2025年9月3日から3日間、千葉市美浜区の幕張メッセにて分析機器展JASIS 2025が盛大に開催された。年に一度、国内外の分析・科学機器メーカーが一堂に会する最先端の科学・分析システム&ソリューション展であり、米国のPittcon、欧州のanalyticaと並ぶアジア最大級の展示会である。本会会員にとっても身近なイベントであり、多くの方が参加されたのではないだろうか。本稿では、その様子的一端を紹介したい。

本記事の執筆にあたり、筆者らは9月4日に傍嶋真JASIS 2025 実行委員長、長谷川壽一日本科学機器協会会長、杉沢寿志JAIMA 技術委員会委員長を訪問し、取材の機会をいただいた。

JASIS 2025 の新しい試み

JASIS 2025 が社会に向けて発信するメッセージは『『測る』が支える未来の社会』である。単一企業だけでなく、企業同士、さらには産官学の連携により産業の発展と豊かな暮らしを実現していこうとする強い意志が感じられた。また、本展示会のコンセプトは「五感で感じる学び場」である。このコンセプトのもと、JASIS 2025 ではさまざまな企画が実施された。ここでは、その一部を紹介する。

まず、展示会場のレイアウトが刷新された。会場の動線を明確化するために「JASIS Avenue」が設置され、来場者が効率よく会場を巡ることができるよう工夫されている。さらに、学協会や研究機関、スタートアップ企業などのブースが並ぶ「JASIS Street」も設けられ、活発なコミュニケーションの場が創出された。

また、JASIS では数年前からLabDXを推進する取り組みを行っている。今年は展示会場内のJASIS スクエアのメインステージにおいて、LabDXにかかわる実機展示や実演が行われ、研究室の自動化やデータ駆動型研究を具体的にイメージできる内容となっていた。

さらに、幕張メッセに来場しなくても展示内容やセミナーを視聴できる「JASIS WebExpo」も開催されている。オンライン登録を行うことで無料で閲覧することが可能であり、展示会の情報発信の幅を広げる試みとなっている。

加えて、生成AIを活用した出展企業と来訪者のマッチングサービスも導入された。WebExpoへの登録情報をもとに、来場者の興味に応じて訪問すべき企業を提案する生成AI端末が会場内に設置されていた。

開幕式

9月3日に開幕式が行われた。本会からも山本博之会長が参加され、テープカットを務められた(写真1)。



写真1 開幕式におけるテープカット

出展ブース

実際に展示会場を訪れると、多くの来訪者が各ブースで企業の説明を熱心に聞き、活発に議論している様子が見られた(写真2)。JASIS Avenueに沿って歩くことで、さまざまな分野のブースに自然と出会うことができる(写真3)。これまで自分の関心分野のブースのみを訪れることが多かったが、このレイアウトは視野を広げる有



写真2 展示ブース

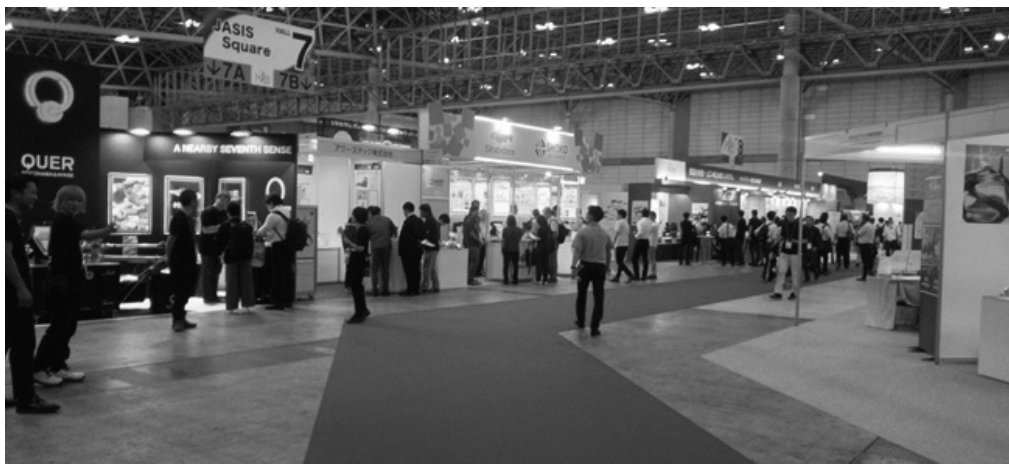


写真 3 JASIS 展示会場
カーペットが JASIS Avenue

効な工夫であると感じられた。実際、来訪者が特定の場所に集中することなく各ブースに分散しており、多くの来場者がいるにもかかわらず、比較的ストレスなく展示を見学することができた。

来訪者はアンケートに回答したり、一定数のブースを巡覧したりすると景品を受け取ることができる。筆者もアンケートに回答し、JASIS オリジナルのミネラルウォーターをいただいた。各社ブースでもアンケート回答によるノベルティ配布などの企画が行われており、展示会を楽しみながら回る仕掛けが随所に見られた。

展示会場内の JASIS スクエアを訪れると、メインステージには分析の自動化に関するさまざまな装置が展示されていた。これらが研究室に導入された将来の研究環境を想像しながら見学すると、近未来のラボを彷彿とさせる内容であった。サブ会場では各社によるショートプレゼンテーションが行われており、最新の技術情報を絶え間なく聞くことができた。

会場には生成 AI による出展企業と来訪者のマッチングサービスを行う端末も設置されていたので、実際に試してみた。質問項目は四つほどで、筆者は分離手法に興味があることを入力した。すると、分離装置メーカーだけでなく、ポンプや材料など関連技術を有する企業も推薦された。従来であれば分離装置メーカーのみを訪れていたが、このサービスにより思いがけない企業との出会いがあり、視野を広げる良い機会となった。このような仕組みは異分野との接点を生み、イノベーション創出の契機にもなり得ると感じられた。

トピックスセミナー・併設学会

JASIS の「トピックスセミナー」では、化学分析の基礎から最新トレンド、各社の新製品・新技術の紹介、さらには化学分析に関わる法規や JIS 改正などを解説する講演が多数開催されている。今回は特に LabDX 関連のセミナーが多く見受けられた。例えば、「ロボットアー

ムで小さく始める実験自動化」「自動自律実験を支援するソフトウェア NIMO」「『直感』をデータが加速する：データ駆動型研究開発とラボオートメーション」などである。展示会場でも LabDX をテーマとしたステージが設けられ、関連企業による事例紹介などが行われていた。

また、生物工学会、日本学術振興会、日本定量 NMR 研究会など、さまざまな学会と連携したセミナーイベントも開催された。本会関係者や学生が多数参加したイベントとして、英国王立化学会（RSC）と JAIMA の共催による「RSC-JAIMA Symposium on Analytical Chemistry（旧 RSC Tokyo International Conference）」が 9 月 4 日および 5 日に開催された。RSC の学術誌 *Analyst* は 2025 年に創刊 150 年を迎える。*Analyst* 誌にゆかりのある研究者による招待講演と 98 件のポスター発表が行われ、会場は熱気に包まれていた。国内で、しかも無料登録で国際的な学会に参加できることから、若手研究者にとって貴重な登竜門となっている。学生や若手研究者にもぜひ参加してほしいイベントである。

JASIS Café

新しい企画として、展示会場内に「JASIS Café」と呼ばれるコーナーが設置されていた。ここではコーヒーを題材として、栽培から飲用に至るまでの過程において分析技術がどのようにかかわっているかを紹介する展示が行われていた。実際の機器展示に加え、多くの工程で用いられる分析技術が体系的に紹介されていた。筆者は参加できなかったが、実際にコーヒーを提供する企画もあり、味覚や嗅覚を通じて分析化学を体験できたようである。来年以降も継続予定とのことであり、次回のテーマにも期待したい。

日本分析化学会の関連イベント

本年度は日本分析化学会のブースも出展された（写真



写真4 日本分析化学会のブース

た傍嶋真 JASIS 2025 実行委員長、杉沢寿志 JAIMA 技術委員会委員長、長谷川壽一日本科学機器協会会長に、この場を借りて厚く御礼申し上げる。なお、執筆が遅くなり、本記事の掲載が大幅に遅れましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

〔宇都宮大学工学部 稲川 有徳〕
〔浜松医科大学 高橋 豊〕

4). 本会の活動紹介に加え、「ぶんせき」「分析化学」「Analytical Sciences」各誌の紹介や認証標準物質の展示などが行われていた。事務局によれば、JASIS へのブース出展は久しぶりとのことである。会長、副会長をはじめ事務局の方々が来訪者に丁寧に対応されている様子が印象的であった。今後も継続して出展し、本会の活動を広く発信するとともに、産業界との連携がさらに広がることを期待したい。

また、セミナーイベントとして関東支部分析イノベーション交流会による産官学連携イベントも開催された。今年は「交流の輪を広げる分析イノベーションフォーラム 2025」と題し、東京大学の稲見昌彦氏、株式会社リバネスの井上浄氏による講演のほか、産学9組織によるブース出展と参加者間の交流が行われた。組織間だけでなく個人レベルでも活発な交流が見られ、本会のプレゼンスを高める良い機会となっていた。

おわりに

取材時に傍嶋委員長は「人間の“センサー”をフルに活用して JASIS を楽しんでほしい」と述べていた。まさに身体全体で分析技術を感じることでできる展示会であった。展示会は予算決定権を持つ担当者が参加する場という印象があるかもしれないが、最新の分析機器や技術を間近で見ることができ、学生にとっても非常に魅力的な機会である。また、セミナーでは講義では扱われない実務的な知識を学ぶこともできる。セミナー内容も今後さらに刷新・拡充されていくとのことであり、若手研究者にもぜひ展示会とセミナーの双方に参加してほしい。

次回の JASIS 2026 は 2026 年 9 月 2 日（水）から 9 月 4 日（金）まで幕張メッセにて開催予定である。また、WebExpo は 7 月上旬から 10 月下旬まで開催される予定である。

最後に、本記事の執筆にあたり取材にご協力いただき